みんなでかんがえよう

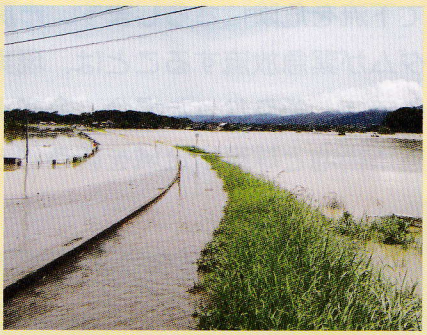
球磨川・川辺川と ひとよしの未来

くま川鉄道鉄橋のダム化で被害拡大
川辺川ダムで洪水は防げない

2020 年 7 月の球磨川豪雨災害のあと、国は豪雨検証を短期間にわずか 2 回の会議で終了。「川辺川ダムありき」の検証だと批判されています。

人吉市街地に球磨川から流れ込んできた大洪水は、球磨川・川辺川合流点のくま川鉄道鉄橋でつくられたものです。合流点の鉄橋（第四橋梁）に大量の流木が詰まり、鉄橋上流周辺に大氾濫を起こした後、鉄橋は壊れ、氾濫水と洪水が一気に市街地へ流れ込んでいきました。川辺川にどんなに大きなダムを作っても、この洪水を防ぐことはできません。

国や県は川辺川ダム建設を正当化するため、合流点で起きたこの出来事はなかったことにしようと必死です。


7月4日相良村陣の内はかつてない氾濫に

「くまがわハウスチャンネル」登録
動画でわかりやすく解説しています！

穴あきダムでも命と清流は守れない

「穴あきダムは命も清流も守る」のウソ

人吉市で亡くなった 20 名の方々は、球磨川本流の氾濫ではなく、山田川や御溝など、支流や用水路からあふれた水のため亡くなっていたことが明らかに。市民や研究者による調査で、球磨川流域の犠牲者 50 名の亡くなった状況を丁寧に検証したところ、たとえ川辺川ダムを作り本流の水位を下げたとしても救えなかっただろうことが判明しています。

「穴あきダム」と言っても、自然の流れをさえぎる巨大なコンクリートのダムです。全国各地の穴あきダムでは、完成後に上流と下流で川の生態系や景観が激変し、大雨後の濁りがさらに長期化するようになっています。ダムができれば、川辺川・球磨川の清流らしい水質と景観、豊かな生態系は失われ、アユはさらに激減し、「死の川」になります。

「命も清流も守るダム」など、存在しないのです。

命をうばう！ダム緊急放流

緊急放流のおそろしさは、短時間で急に水位が上昇すること。愛媛県肱川（ひじかわ）では2018年、ダムの緊急放流により、逃げる時間もないほど一気に水位が上昇し、犠牲者が出ました。

2020年球磨川豪雨豪雨では、あふれる水から逃げ惑うさなかに、「市房ダム緊急放流」のニュースが流れ、多くの住民が恐怖に震えました。これまで国や県は「ダムに流れ込む水と同量の水しか放流しないから安全」としてきましたが、2022年9月の台風14号での緊急放流では、真夜中に数時間に渡り、ダム流入量より多くの水を下流に流していました。

ダムは、予想を超える大雨には対処できず、緊急放流によって下流を危険にさらします。市房ダムに加え、同時に川辺川ダムが緊急放流することは、現実的に十分にあり得ることなのです。そうなった場合、今回よりさらに壊滅的な被害が人吉市街地と球磨川流域を襲うことになるでしょう。

流域住民が経験した緊急放流の恐怖
（写真:県の市房ダムホームページより）

災害発生源となった 流域の森林保全こそ急務

大規模皆伐や荒廃した山が急増

球磨川豪雨災害では、支流上流の数百か所以上で斜面崩落が発生し、流れ出た立木と土砂により、氾濫による被害が拡大しました。しかし、国や県は森林の問題を検証することなく、ダムと堤防強化を柱にした、名ばかりの「緑の流域治水」を進めています。

球磨川流域の84%は森林で占められています。近年の大規模な皆伐、シカの食害、間伐されない放置林によって保水力が下がり、待ったなしの危機的な状況です。

球磨川流域の命とくらしを守るためには、治水のための林業政策に今すぐ取り組み、長期的、短期的視点で森を再生することが必要です。

発行

美しい球磨川を守る市民の会 ／ 7・4球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会 ／
坂本町被災者・支援者の会 ／ 瀬戸石ダムを撤去する会 ／
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

代表連絡先：熊本市西区島崎4−5−13　電話：090-2505-3880

2023.4